

大会総則

第68回国民体育大会関東ブロック大会総則

1 開催の趣旨

国民体育大会関東ブロック大会は、時代の要請に応じて関東ブロックのスポーツを振興し、地域住民の健康増進と体力の向上を図るとともに、スポーツの交流を通じて各都県の親睦と友情を深め、併せて地方文化の発展に寄与しようとするものである。

神奈川県で開催する関東ブロック大会においては、時代に適応した運営の簡素化・効率化及び環境に配慮した大会となることを目指すとともに、参加する選手、ボランティア、役員等による交流及び連携・協働の推進を図る。

2 主 催

公益財団法人日本体育協会、神奈川県、
関東ブロック各県教育委員会（茨城・栃木・埼玉・千葉・神奈川・山梨）、群馬県、東京都、
関東ブロック各都県体育（スポーツ）協会、関東ブロック各実施競技団体、
神奈川県会場地市町村

3 主 管

神奈川県教育委員会、公益財団法人神奈川県体育協会、神奈川県各実施競技団体、
神奈川県会場地市町村、神奈川県会場地市町村体育（スポーツ）協会

4 後 援

文部科学省

5 実施競技 33競技

（1）本大会 32競技（正式競技：31競技 公開競技：1競技）

正式競技：水泳、サッカー、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、
ウエイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、
柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、
山岳、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ

公開競技：ビーチバレー

（2）冬季大会 1競技

アイスホッケー（第69回国民体育大会冬季大会）

6 会期・会場地

別紙「第68回国民体育大会関東ブロック大会（以下「大会」という。）競技日程・会場・アクセス」による。

（1）中心会期

平成25年8月23日（金）～25日（日）

（2）会場地

神奈川県内13市2町1村、東京都青梅市

なお、競技運営上、競技日程・会場等を変更する場合は、第68回国民体育大会関東ブロック大会神奈川県実行委員会（以下「神奈川県実行委員会」という。）の承認を得るものとする。

7 競技方法

別に定める「競技別実施要項」による。

8 参加資格、所属都県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

(1) 参加資格

ア 日本国に国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」(「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。)

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「9 各競技の参加申込方法」で定めた参加申込締切時に1年以上在籍していること。

b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」又は「家族滞在」(中学3年生)に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。

b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会終了時において「留学」に該当しないこと。

[注] 上記(ウ) bについて、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手及び監督は、所属都県の当該競技団体会長(代表者)と体育(スポーツ)協会会長(代表者)が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 第66回又は第67回大会(都県大会及びブロック大会を含む。)において選手及び監督の資格で参加した者は、次の場合を除き、第66回又は第67回大会と異なる都県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

a 平成24年度に「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者

b 結婚又は離婚に係る者

c ふるさと選手制度を活用する者(別記1「国民体育大会ふるさと選手制度」による。)

[注] 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者(別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」による。)

(イ) 少年種別

a 平成24年度に「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者

b 結婚又は離婚に係る者

c 一家転住に係る者(別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」による。)

d JOCエリートアカデミーに在籍する者(別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。)

e 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者(別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」による。)

エ 選手及び監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。

カ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において異なる都県から参加することはできない。

キ 前記のほか、選手については次のとおりとする。

(ア) 健康診断を受け、健康であることが証明された者であること。

(イ) 都県大会に参加し、これに通過した者であること。

ク 前記のほか、監督については公益財団法人日本体育協会（以下「日本体育協会」という。）公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

なお、第68回大会における特例として、次の取り扱いについて、各競技において別に定める。（「第68回国民体育大会における監督への公認スポーツ指導者資格の義務付けに係る取り扱いについて」参照）

(ア) 平成24年度公認スポーツ指導者養成講習会の修了者（平成25年10月1日付認定予定者）

(イ) 平成25年度公認スポーツ指導者養成講習会の受講者

(2) 所属都県

所属都県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都県から選択することができる。

ア 成年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 勤務地

(ウ) ふるさと（別記1「国民体育大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

イ 少年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 「学校教育法」第1条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）

(ウ) 勤務地

(イ) 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地

「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、平成25年4月30日以前からブロック大会終了時まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

[成年種別]

a 別記4「トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける場合

b 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける場合

[少年種別]

a 「一家転住」した場合

b 別記4「トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける場合

c 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置」の適用を受ける場合

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。

(ア) 成年種別に参加する者は、平成7年4月1日以前に生まれた者とする。

(イ) 少年種別に参加する者は、平成7年4月2日から平成10年4月1日までに生まれた者とする。

(ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、平成25年4月1日を基準とする。

イ 公益財団法人日本体育協会（以下「日本体育協会」という）が特に認める場合は、(3)アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学3年生（平成10年4月2日から平成11年4月1日までに生まれた者）とする。

(4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本体育協会及び当該競技団体が調査・審議のうえ、日本体育協会がその可否を決定する。

別記1【国民体育大会ふるさと選手制度】

(1) 成年種別に出場する選手は、開催基準要項細則第3項〔本則第8項第1号及び第10項第4号（参加資格及び年齢基準等）〕に基づき、次のいずれかを拠点とした都県から参加することができる。

- ア 居住地を示す現住所
- イ 勤務地
- ウ ふるさと

- (2) 「ふるさと」とは、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都県とする。
ただし、JOCエリートアカデミーに係る選手については、別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- (3) 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関らず、本制度を活用できるものとする。
- (4) 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は、変更できないものとする。
- (5) 「ふるさと」から参加する選手は、開催基準要項細則第3項 - (1) - 1) - (国内移動選手の制限) に抵触しないものとする。
- (6) ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。

別記2【「一家転住等」に伴う特別措置】

転校への特例

- 1 次の内容を全て満たすことにより、国内移動選手の制限（開催基準要項細則第3項 - (1) - 1) - ）に抵触しないものとする。

- (1) この特例の対象は、少年種別年齢域の参加者に限る。
- (2) 本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。なお、「一家転住等」とは概ね次のことを言う。
- ア 親の転勤による一家の転居
 - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
 - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居

- (3) 転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。
- ア 本特例を受けようとする参加者は、次の2(1)の場合は転居元、2(2)の場合は転居先が属する都県体育（スポーツ）協会（以下「都県体育協会」という。）及び都県競技団体に対し、その旨報告すること。

- イ 報告を受けた都県体育協会及び都県競技団体は、次の2(1)の場合は転居先、2(2)の場合は転居元が属する都県体育協会及び都県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。

- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都県は次のとおりとする。

- (1) 転居した時点において、次に該当する場合は転居元が属する都県から参加することができる。
- ア 転居先が属する都県の代表が既に決定している場合
 - イ 当該参加者が、転居元が属する都県の代表として既に決定している場合
 - ウ 当該参加者が、転居元が属する都県の代表選考過程にある場合
- (2) 転居した時点において、次に該当する場合は転居先が属する都県から参加することができる。
- ア 転居元が属する都県において、当該大会における都県代表の選考が開始されていない場合

別記3【JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置】

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOCエリートアカデミー」に係る選手のうち、次の(1)に該当する者については、開催基準要項細則第3項及び別記1「国民体育大会ふるさと選手制度」に関し、次の(2)～(4)の特例を適用する。

(1) 対象者

- ア 少年種別年齢域の選手でJOCエリートアカデミーに在籍する者

- イ 成年種別年齢域の選手でJOCエリートアカデミーを修了した者、または同アカデミーに在籍する者
- (2) 少年種別年齢域の選手の所属都県
- (1) アに定める少年種別年齢域の選手は、その所属都県について、「居住地を示す現住所」、「学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都県を選択することができる。
- なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都県を選択することができる。
- (3) 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」
- (1) イに定める成年種別年齢域の選手は、別記1「国民体育大会ふるさと選手制度」(2)に定める卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都県のほか、卒業小学校の所在地が属する都県を「ふるさと」とすることができる。
- なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都県を「ふるさと」とすることができる。
- (4) 国内移動選手の制限にかかる例外適用
- (1) アに定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都県大会を含む）と異なる都県から参加する場合、開催基準要項細則第3項 - (1) - 1) - (国内移動選手の制限)に抵触しないものとする。
- [注](1)イに定める成年種別年齢域の選手については、開催基準要項細則第3項 - (1) - 1) (国内移動選手の制限)の規定に従い取り扱うものとする。

別記4【トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置】

1 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、次の条件のいずれかを満たす者とする。

- (1) 第30回オリンピック競技大会（2012年・ロンドン）に参加した者。
- (2) 平成25年4月30日時点で、次のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者。
- ア JOCアスリートプログラム強化指定選手
- イ 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者
- ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手

強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

2 特例の内容

(1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都県予選会及びブロック大会を経ずに国民体育大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都県代表選手またはチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

(2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都県として「居住地を示す現住所」または「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、次のとおりとする。

ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 平成25年の4月30日以前から大会の終了時まで引き続き、住民票または外国人登録原票記載の住所に存する都県において生活している実態があり、当該都県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

- a 自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること
- b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
- c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること

d 当該住居に主要な家財道具が存すること

(イ) 合宿、試合等により当該都県外で活動を行う場合、当該都県を移動の起点としていること。

イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

(ア) 平成25年の4月30日以前から大会終了時まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

(イ) 当該都県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民体育大会開催基準要項細則第3項 - (1) - 1) - のとおりとする。

別記5【東日本大震災に係る選手及び監督の国民体育大会参加資格の特例措置】

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都県とする場合の要件緩和

次の選手及び監督は、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくても、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。ただし、次の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 平成23年3月11日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の学校教育法第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 災害が発生しなかったと仮定した場合、平成25年4月30日以前から各競技会終了時まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都県に移動した次の選手及び監督については、移動先の都県から参加することができる。

なお、この場合、第66回及び第67回大会に当該特例対象県から参加していても、国民体育大会開催基準要項細則第3項 - (1) - 1) - （国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、次の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 平成23年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。

もしくは当該特例対象県内の学校教育法第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が平成25年4月30日以降の場合は、移動先の都県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への

住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都県に居住あるいは通学している実態を有していると日本体育協会が認めた場合、移動先の都県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都県から第68回大会に参加した者が、第69回大会において、次のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民体育大会開催基準要項細則第3項 - (1) - 1) - (国内移動選手の制限) には抵触しないものとする。

<例> 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合

他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民体育大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、次のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

(ア) 卒業中学校または卒業高等学校の所在地

(イ) 災害の発生した時点で在籍していた中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記(イ)の学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

平成23年度～24年度に、避難等による移動先の属する都道府県において中学校または高等学校を卒業した者。

9 各競技の参加申込方法

(1) 各都県競技団体は、国体参加申込システム関東ブロック大会申込ページ(所定のWebページ) にアクセスし、必要事項を入力の上、所属都県体育協会を通じて、定められた期限までに申込手続きを完了すること。公印は省略とする。

(2) 参加申込手続き時に、第68回国民体育大会関東ブロック大会実施要項総則8(2)ア(ウ)に該当するふるさと選手が出場する場合は、競技団体ごとに所定のWebページから「ふるさと申込書」に必要事項を記入の上、定められた期限までに申し込み手続きを完了すること。(関東ブロック大会参加者のみでもよい。)

(3) 実行委員会事務局は、神奈川県実施競技団体に参加申込情報を送信する。その際、個人情報の取り扱いについては十分留意すること。

(4) 申込期限

次のとおりとする。

期 限	競 技
平成25年5月1日(水)	カヌー(スラローム・ワイルドウォーター)
平成25年6月13日(木)	水泳(シンクロ)、山岳、カヌー(スプリント)、 クレール射撃、ボウリング、ゴルフ
平成25年6月20日(木)	ボート
平成25年7月2日(火)	水泳(水球)、ビーチバレー
平成25年7月18日(木)	サッカー、ホッケー、ボクシング、バレーボール、 体操、バスケットボール、ウエイトリフティング、 ハンドボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球、 馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、 バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、 ラグビーフットボール、アーチェリー、空手道、 銃剣道、なぎなた
平成25年11月14日(木)	アイスホッケー

(5) 参加申込締め切り後の交代(変更)は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で交代(変更)する場合は、別に定める「第68回国民体育大会関東ブロック大会参加選手・監督交代(変更)届」により、次のところあてに届け出なければならない。

ア 第68回国民体育大会関東ブロック大会神奈川県実行委員会事務局

イ 神奈川県実施競技団体事務局

10 大会参加負担金

(1) 都県負担金

1 都県当たり2,000,000円とする。

(2) 関東競技団体分担金

次のとおりとする。

金額	競技団体名
20万円	ウエイトリフティング、卓球、軟式野球、フェンシング、柔道、 バドミントン、弓道、剣道、山岳、アーチェリー、空手道、銃剣道、 クレール射撃、なぎなた、ゴルフ
25万円	水泳、サッカー、ボート、ボクシング、体操、バスケットボール、 ソフトテニス、馬術、ライフル射撃、ラグビーフットボール、 カヌー、ボウリング、アイスホッケー
30万円	ホッケー、バレーボール(ビーチバレーを含む)、ハンドボール、 ソフトボール

(3) 参加料

ア 納入対象者

監督、選手、都県選手団本部役員

イ 金額

1人当たり800円とする。

ウ 納入方法

参加申込み期限までに、神奈川県実行委員会に納入する。

(4) 納入先

金融機関・店名	横浜銀行・県庁支店
預金種別・口座番号	普通・6027580
口座名義	ダイ68カイクミンタイイクタイカイクアントウブ ロックタイカイ 第68回国民体育大会関東ブロック大会 カナガワケンジッコウインカイ ジムキョクチョウ タイラ ヤスヒサ 神奈川県実行委員会 事務局長 平 容久

11 宿泊申込み

大会参加者は、神奈川県実行委員会が指定した所定の様式により、参加申込期限までに申し込む。

12 宿泊・昼食弁当料金

(1) 宿泊

監督・選手・都県選手団本部役員・報道関係者

宿泊料金	摘要
9,000円	1泊2食(サービス料・消費税を含む。)

(2) 昼食弁当

800円(消費税込み)

その他必要な事項については、別に定める「大会宿泊要項」による。

13 都県選手団本部役員編成及び視察員

(1) 都県選手団本部役員は、団長、副団長、総監督及び総務とし、1都県当たり計15人以内とする。

(2) 上記役員のほか、5人以内の顧問を設けることができる。

(3) 視察員は、1都県3人以内とする。ただし、平成26年度開催県は、20人以内とする。

14 参加上の注意事項

(1) 監督及び選手は、競技に際し、所属都県名を明示したユニフォームを着用しなければならない。

(2) 選手は、健康診断を受け、健康であることが証明された者であること。

(3) 都県選手団本部役員、監督及び選手は、「国民体育大会参加者傷害補償制度」に加入すること。

15 総合開会式

(1) 日時

平成25年8月23日(金)午後4時から

(2) 場所

ホテルキャメロットジャパン 4F「フェアウインド」

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-3

最寄駅：横浜駅西口よりダイヤモンド地下街南12番出口

16 競技会開始式・閉会式

各競技会の開始式及び閉会式は、実状に合わせることをとする。

17 その他

- (1) 参加申込書、参加者負担金及び宿泊申込書等が、定められた期限までに指定された場所に到着しない場合は、その理由のいかんを問わず、大会への参加を認めない。
- (2) その他の事項については、開催基準要項及び同細則に準じる。